

第7回 現代世界の系統地理的考察

■■ 自然環境編 ■■

世界の気候を見てみよう (3)

～降水の多い気候、少ない気候～

監修・講師

田中友也

学習のねらい

赤道付近には、年間降水量が 2,000mm を超える地域がある。一方で、それほど赤道から離れていないにもかかわらず、ほとんど雨が降らない地域もある。いずれもわりと気温は高いのだが、なぜ降水量が多い地域と少ない地域が存在するのだろうか。そして、こうした気候の違いは、人々の生活にどのような影響を与えるだろうか。

今回のポイント

- 雨が多い地域・少ない地域があるのはなぜ？
- 高温多湿な熱帯の自然と生活
- 水の少ない乾燥帯の自然と生活

■■■ 雨が多い地域・少ない地域があるのはなぜ？ ■■■

すでに学習した通り、大気は地球規模で大きく循環をしている（大気の大循環）。赤道付近は太陽エネルギーを大量に受けるため、気温が上がり大気が上昇する。よって赤道付近の気圧は低くなる（熱帯収束帯、赤道低圧帯）。この上昇した気流は緯度 20～30 度あたりで下降気流となるため、この付近は高気圧に覆われる（亜熱帯高圧帯、中緯度高圧帯）。

こうした気圧帯の違いにより、赤道付近は降水量が多い熱帯が、その北・南には乾燥帯が分布する。

また、地球の自転軸は傾いているため、太陽エネルギーを強く受ける場所は 1 年間で変化する。つまり、北半球は 6 月下旬ごろに、南半球は 12 月下旬ごろに太陽エネルギーが大量に降り注ぐ。これによって、熱帯収束帯も北や南に移動するため、1 年のうちに低圧帯の影響下に入ったたり、高圧帯の影響下に入ったたりするという地域がある。こうして、降水量の多い季節・少ない季節が生じることがある。

■■■ 高温多湿な熱帯の自然と生活 ■■■

赤道直下によく見られる熱帯雨林気候（Af）は 1 年間を通じてずっと降水量が多く、午後には強い風を伴う激しい雨に見舞われる。弱い乾季のある熱帯雨林気候（熱帯モンスーン気候、Am）も降水量は多いが、名前の通り短いとはいえ雨の降らない季節（乾季）がある。こうした気候が見られる地域では、背の高い樹木をはじめ多種種類の植物が密集して生育する熱帯雨林

が広がっている。

一方で、熱帯でもはっきりした雨季と乾季の差がある地域の植生は大きく異なる。サバナ気候(Aw)の地域には、草原の中に木々がまばらに生育している程度である(このような草原をサバナという)。しかも乾季になると、木々の葉は落ち、草は枯れてしまう。

いずれにしても熱帯は気温が高く、多くの雨が降り湿度が高い地域が多い。熱帯に暮らす人々はこのような環境に対応する工夫をしてきた。例えば住居は、湿気がこもらないように窓を大きく開け通気性を良くしたり、高床にして地面からの湿気や水位の上昇や洪水による浸水を防ぐ構造にしたりしている。

■ ■ 水の少ない乾燥帯の自然と生活 ■ ■

亜熱帯高圧帯の影響下にある乾燥帯(大陸内部で海からの水蒸気が届かないところや、寒流の沿岸で空気が冷えているため上昇気流が発生しにくい地域などにも見られる)は、熱帯と異なり降水量がかなり少ない。よって砂漠気候(BW)のように植物がほとんど生えないところも多い。一方でステップ気候(BS)では、短い雨季があるため短い草が生える草原(ステップ)が広がっている。

住居も特徴的である。まず、熱帯のように木が生えないため、建材として木材が使いにくい。そのため主な素材は土を固めた日干しレンガや、羊などの動物の毛・皮である。また、特に内陸部は1日や1年の気温の差が大きいため、外の熱い空気や冷たい空気を住宅内に入れないよう窓を小さくしたり壁を厚くしたりして断熱性を高めている。

また、乾燥している地域でも、外来河川が流れてきたり井戸や地下水路を建設したりして水が確保できるところ(オアシス)では、農業が可能となり集落が発達している。水が得られるか得られないかは、人々にとってまさに死活問題である。